

がんばる工織大生 | Active KIT students

# 学生主体で 国際交流イベントを開催

2022年10月の1カ月間にわたり「インターナショナルマンス」が実施され、さまざまな国際交流イベントが開催されました。その中でイベントの企画・運営に携わった学生団体KITICOの主務 宮武侑里さん（応用化学課程4回生）、副主務 成田真也さん（同2回生）にお話を伺いました。

Fig.1——成田さん（左）と宮武さん（右）



Fig.2——イベントには多くの参加者でにぎわった

## ——KITICOはどのような団体なのでしょう。

**宮武** 京都工芸繊維大学に来ている留学生に、初めての京都生活に慣れてもらえるよう、各種のイベントや企画を行っている団体です。インターナショナルマンスの他にも、遠足や文化体験などを実施しています。

**成田** メンバーの学年はさまざまで、大学院生の方もいますが、1～2回生が多いですね。私も1回生の頃から参加しています。英語や言語全般、異文化に興味があったので、参加を決めました。

**宮武** 私も入学時から国際交流に興味がありました。ただコロナ禍ということもあり、KITICOもほとんど活動していなかったため、その存在を知ったのは3回生の時でした。私のやりたいことにぴったりだと思い、迷わず参加しました。

## ——今回企画されたイベントについて教えてください。

**成田** 私たちKITICOは、留学生が他の学生と交流関係を作るきっかけとなるゲームイベントを企画しました。

**宮武** 留学生・日本人学生がお互いのことを知るきっかけとなるように、「人間ビンゴ」というゲームを考えました。ゲームのルールとしては、まずマス目に「今日お米を食べた」「和楽器が弾ける」「双子である」といった条件が書かれたビンゴカードをみんなに配ります。そして1対1で自己紹介をしてもらって、条件に当てはまる人がいればマスを埋められるというものです。

**成田** 単に自己紹介をするだけだと、途中で話が途切れてしまうこともあります。どんどん会話を膨らませていけるように、こうした企画を考えました。

**宮武** マス目の項目については、さまざまな国・地域の留学生が参加することから、宗教的・文化的に問題のない内容になるよう注意しました。その点は、KITICOと連携している国際課の方にも確認していただきました。

**成田** 人間ビンゴ以外にもう一つ、豆つかみと玉入れを合

わせたようなゲームを考案しました。箸を使っていろんなものを移すゲームで、日本の道具に親しんでほしいという思いから企画しました。

## ——KITICOに参加してよかったと感じることは何ですか。

**宮武** まずは留学生の友人が増えたこと。宗教や文化についても、自分が知らないことをたくさん教えてもらい、世界が広がったと感じます。また、留学生の方は何カ国語も話せたり、言語の習得に熱心だったりするので、そうした点で刺激をもらっています。

**成田** 刺激がある、というのは僕もよくわかります。将来の進路についてははっきりとした考えを持っている方がいて、「じゃあ自分はどうしよう?」と考えるきっかけをもらいました。あとは、KITICOに入ってから国際課に足を運ぶ機会が増え、いろんな国際イベントを教えてもらうようになり、興味の幅が広がりました。

**宮武** 主務の立場になってからは、イベントでも先頭に立ち、チームをまとめる機会が増えました。この経験を通して、リーダーシップがとても磨かれたと思います。

## ——最後に、今後の活動の目標をお聞かせください。

**宮武** 京都市の留学生サポート団体とコラボでイベントを行うなど、KITICOはどんどん新しいことにチャレンジしています。今後は、国際交流が盛んな他大学の団体とのコラボ活動などにも取り組んでいきたいです。

**成田** 英会話オンリーでランチをする「Lunchtime English Table」という企画があるのですが、その日本語版をやってみたいです。日本語で日本人学生と話したいというニーズもきっとあると思います。

**宮武** KITICOはいつでもメンバー募集中です。ミーティングはオンラインも多く、他の活動とも掛け持ちしやすいので、国際交流に興味がある方、いろんな人に出会ってみたいという方はぜひ参加してみてください。

留学生が工織大での生活になじめるよう、交流イベントを通じてサポートしたい。